



キク白さび病菌のストロビルリン剤感受性検定

キク白さび病(図1)に有効なストロビルリン剤を散布しても、防除に失敗する事例が発生しています。このため、広島県における耐性菌の発生状況について調べました。



図1 キク白さび病の病斑と孢子

A:キクの病斑(梅雨期, 秋期に発生) B:冬孢子(白い斑点の正体) C:担子孢子(葉に付着, 侵入し感染)

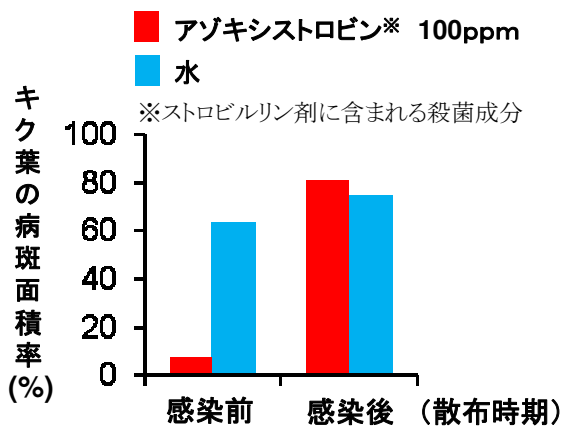


図2 白さび病の防除効果(2018年)



図3 ストロビルリン剤散布後のキク葉の状況

a: 感染前の散布 b: 感染後の散布

- ストロビルリン剤は、感染前の散布で白さび病に高い予防効果を示しました(図2, 3)。
- ストロビルリン剤は、感染後の散布では白さび病に治療効果は認められませんでした(図2, 3)。
- 広島県で発生した白さび病菌の遺伝子を解析したところ、ストロビルリン剤に耐性を引き起こす変異は認められませんでした(2018年, データ省略)。

■以上から、本県においてストロビルリン剤耐性菌の発生は確認できませんでした。

キク白さび病防除時の留意事項

- ストロビルリン剤の耐性菌を出現させないよう、異なる系統の殺菌剤によるローテーション散布を心がけましょう。
- ストロビルリン剤は露地では降雨前、施設では低温又は多湿による結露前など、感染前を見計らって予防的に散布しましょう。